

質 問

三世代同居型住宅への支援の考えは

塔村俊介 議員

町長 できれば来年度からスタートしたい



空き家バンク登録状況	
登録空き家	22件
利用登録者	35件
うち 賃貸成立	6件
売買成立	3件
空き家等実態調査結果	
空き家軒数	206軒
利用可能	40%
内部調査が必要	45%
倒壊危険家屋	15%

今後も増え続ける空き家の活用策が急務

問 奥出雲町で着実にリターン者が増えているが、一方で空き家が増えている状況だ。家を建てる層が少ない、町外に家を建てるといったことが原因ではないか。

答 空き家バンク、空き家調査の現況を問う。

答 森長地域振興課長 所有者への調査を行っている。(件数は左表参照)

問 今後を見ても、空き家は増えていくだろうが、できるだけ利用してもらえない。様々な利点がある三世代同居型住宅への支援の考えは。

答 三世代以上が同居することで、子どもを安心して産み育てられる環境になり、また、高齢者の方も子どもや孫と一緒に生活できるのは大変嬉しいことである。

問 そのための住宅を新築・増改築する方への支援制度について、借入金の利子補給などをきめて検討しており、できれば来年度からスタートさせたい。

答 親と同居したいけれど、跡取りがいたりとか、当しない方もいる。結婚したタイミングで新居を探すという方も多いと思うが、子育て世代や新婚夫婦への支援の考えは。

答 空き家バンク利用者には改修補助金制度があるが、住宅取得等への新制度については、他自治体も参考にしながら、制

度を充実していきたい。

問 奥出雲での働く場所の創出について、町で職業紹介所が開設されているが、利用状況はどうか。

答 地域振興課長 これまでに33件の求人12件の求職希望の方の登録があるが、就職につながったケースは現在までない。

問 町内の事業所で誰か働いてくれる人がいないか、また、奥出雲に帰りたいがどこか働く場所がないかと相談を受けるが、集まった情報がない。そのような情報を継続的に届ける仕組みが必要では。

答 関係機関と連携してインターネットなども使った取り組みが必要である。

問 企業誘致の今後の戦略は。

答 情報収集や人とのつながりを大切に、企業が進出しやすい環境をつくる。

問 外から企業を呼ぶだけでなく、町内の頑張る企業を応援する、また

農業のあり方が変わろうとしている今、頑張る農家を応援することも必要、支援の考えは。

答 どういう支援ができるか具体的に検討し、関係者と直接話を交えて議論し、対応策を考えていきたい。

問 地域を下支えするビジネスも必要。地区の唯一の食料品店がなくなつたということもできてきている。住民だけでは難しいものには支援も必要では。

答 近くに商店があるというのは極めて大事なことで。定住、高齢者のため検討を進めたい。

問 これまで奥出雲町の雇用の創出には、第三セクターが大きな役割を担ってきた。三セク方式による雇用創出の考えは。

答 町内の産品を販売する商社機能のようなものがあったり、新たな雇用創出に結びつくような事業展開を検討したい。